

【1. 概要】

- ・施設キュウリ栽培において、総合的な防除体系 (IPM)を導入・普及
- ・現地展示ほを設置し、JA単位の講習会や巡回指導で情報を提供
- ・生産者約130名に複数の新技術が導入され、被害が減少

【2. 実践内容】

(1) 取り組みの背景、経緯

- ・施設キュウリは各種ウイルス病、うどんこ病などの難防除病害虫の発生が多い
- ・平成23年に新たなウイルス病である退緑黄化病が確認された
- ・化学合成農薬のみでは防除が困難となってきた微小害虫(アザミウマ類、コナジラミ類等)に対し、総合的な防除が必要となった

(2) 普及拡大に向けたポイント、成功要因

- ・キュウリ抑制裁培で天敵を含めたIPM技術を組み立て、講習会・展示ほにより、新資材や耐病性品種を紹介した
- ・微生物農薬等は、効果の仕組みや方法、効果の発現が化学合成農薬とは異なることから、資料を作成し、わかりやすい説明に努めた
- ・巡回検討会を行い病害虫の発生や資材使用の実態を把握するとともに、粘着シートで捕殺した微小害虫を生産者と共に観察し、認識の共有を図った
- ・研究部門や病害虫部門と連携して、導入効果の適正な把握に努めた
- ・赤色防虫ネットの導入については、農業青年クラブの共同プロジェクト活動として取り組み、その成果を地域の生産部会で発表した

【3. IPMの推進による効果、得られた経験】

- ・赤色防虫ネットの普及により害虫の侵入が低減した
- ・キュウリ退緑黄化病の発生ほ場が20%減少した
- ・生物的防除資材を取り入れたローテーション防除に取り組む産地が拡大している

表 導入した資材

対象病害虫	資材の区等
うどんこ病	微生物殺菌剤
灰色かび病	
アザミウマ類	微生物殺虫剤
コナジラミ類	防虫ネット
ウイルス病	弱毒ウイルス利用



図 農業青年クラブの共同作業の様子

【問い合わせ先】

農業技術センター普及指導部
電話：0463-58-0333(代表)